

# 国語

## 注 意

1. 問題は全部で28ページである。
2. 解答用紙は(その1)(その2)がある。(その1)はマーク・シートになっている。
3. 解答用紙に氏名・受験番号を忘れずに記入すること。(ただし、マーク・シートにはあらかじめ受験番号がプリントされている。)
4. 解答はすべて解答用紙に記入すること。
5. 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけない。
6. 解答用紙は必ず提出のこと。この問題冊子は提出する必要はない。

### マーク・シート記入上の注意

1. HBの黒鉛筆またはシャープペンシルを用いて記入すること。
2. 解答用紙にあらかじめプリントされた受験番号を確認すること。
3. 解答する記号・番号の○を塗りつぶしなさい。○で囲んだり×をつけたりしてはいけない。

解答記入例(解答が1のとき)

1	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
---	----------------------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------

4. 一度記入したマークを消す場合は、消しゴムでよく消すこと。×をつけても消したことになる。
5. 解答用紙をよごしたり、折り曲げたりしないこと。

— 1 —  
一次の文章を読んで、後の間に答えよ。

種とは生物の種類分けの基本的な単位である。種とは、その成員間で交配が行われるか交配可能な自然集団で、他の同様な集団と生殖的に隔離されているもの、と定義できる。種レベルでの多様性とは、このように定義された集団についての多様性である。現時点では、地球上に二百万ほどの種が記載されているが、実際にはその十倍以上が存在するであろうと言われている。われわれの目に触れやすいものを挙げると、昆虫七十五万、鳥類九千、哺乳類四千、顕花植物二十五万ほどの種が記載されている。

これらの種は、在来種、固有種、外来種に分類できる。在来種とは、本来その地域に生息する種のことである。固有種とは、在来種の一部で、世界でその特定の地域にしか見られないものを指す。固有種は、そこから絶滅すれば世界から消滅することになる。日本には両生類が六十一種おり、その七四%が固有種である。外来種とは、A ではない、すなわち本来その地域に生息しない種のことである。外来の過程は様々で、人間により積極的に導入されたもの、人間の経済活動に伴って移入したもの、生物自身の移動も含む自然の作用により拡散したもの等がある。外来種の中で、人間の健康や生産活動に好ましくない影響を及ぼすものを特に侵略的外来種という。

生物多様性が守られるべきものであることは直感的にはわかるが、説明するとなるとなかなか難しい。わかりやすいのはその有用性、使用価値である。多様な生物が存在することで、われわれはそれらを資源として利用し、水の浄化や防災に利用し、文化的な対象として利用することができる。しかし多様性は有用性に限るものではない。多様性は生命の本質である。遺伝子複製の仕組みや自然選択による進化には、多様性を産出する機能が必然的に含まれている。だから私たちは多様性を重んずるのである。

次に、外来種が生物多様性に与える影響を考えてみよう。そもそも、在来種と外来種の区分が恣意的であることを指摘したのが、ピアスの『外来種は本当に悪者か？』<sup>1</sup>である。トムソンはほぼ同時期に発表された『外来種のウソ・ホントを科学する』で、外

来種問題を五つの「神話」として分析している。この場合、「神話」とは B。

- 一、外来種による侵入が生物多様性を損ない、生態系の機能を失わせる。
- 二、外来種は私たちに多額の損害を与える。
- 三、悪いのはいつも外来種。
- 四、外来種はわたしたちを狙って野をうろついている。
- 五、外来種は悪者、在来種はいい者。

トムソンはこれらの神話についてそれぞれ多くの反例を挙げるか、または根拠がハクジャク<sup>2</sup>であることを説明している。神話一については、研究者が対象を選ぶ際の偏好として外来種が実際に害を及ぼしている事例を選びがちであることを指摘している。例えば、ハワイでは多くの外来種が導入され、そのことで絶滅した在来種はほとんどなく、結果として生物多様性が増加している。神話二については、ヒアリが米国で年間二十億ドルの損失をもたらしているという噂を分析している。このコストはヒアリによる損失ではなく、防除のコストである。ヒアリ防除は、化学薬品会社の利益のために大げさに喧伝された可能性があるらしい。神話その三については、ミンク<sup>\*</sup>の例を挙げている。ミンクの導入により、同様な生態学的環境を持つカワウソが減少たとされた。事実は異なり、ミンクとカワウソの食性はほとんど重ならない。現在では、カワウソの減少は有機塩素系殺虫剤によると考えられている。神話四、五についてはもう説明する必要もないだろう。これらは事実というより、人間の危険検出に關わる認知バイアスと考えたほうが正しい。悪い方向への変化は、C 生物に帰してしまいがちである。凶事はよそ者のせい。

ピアスやトムソンの外来種についての主張を統一的に理解するすべはなかるうか。私は、移入の速度が問題のひとつとして捉えられるのではないかと考える。在来種と外来種とは、双方とも、移入時期の違いに過ぎないという主張は共通している。移入

に関して自然要因しか働かなかった時代にはそのように考えることができるだろう。確かに、在来種の相互作用で一定の安定を構成した環境に外来種がゆつくりと時間をかけて移入してきた場合、外来種は定着せず駆逐されるか、在来種と平衡を取りながら同化してゆくであろう。これは、在来種の側に外来種からの防御機構が進化することで実現される。D、人為的に、急激に移入がなされた場合、何らかの不均衡が人間の目に見える形で現れることは、ゆつくりと移入してきた場合に比べるとはるかに多いに違いない。<sup>3</sup> 不均衡の度合いは、進化の歴史をどのくらい共有してきたかによると考えられる。

生物多様性について、影響ある人物たちが興味深い発言をしている。アクアラングの発明者で海底の世界を撮影しカンヌ映画祭のグランプリとアメリカのアカデミー賞を獲得したクストーは、「南極のように種の数の少ないところの生態系は、きわめてもろい。ところが赤道直下のように生物の種が多ければ、生態系は強い。この法則は、文化にも当てはまる」と語っているそう<sup>\*</sup>だ。女性の交換が親族構造の根本的機能であることを指摘して構造主義の祖とされる文化人類学者のレヴィ・ストロースは、「文化の多様性と生物多様性は有機的に結ばれている」と言う。これらの言明は、直感に強く訴える。レヴィ・ストロースやクストーであれば、これで許されるが、私程度では許されないだろう。私はこの言明に論理付けする必要がある。まず、生態系の強さと生物多様性の関連について考える。

遺伝子レベルの多様性ではこれは理解しやすい。ある種の個体群が遺伝子レベルで変異を持たないとどうなるか。つまりクローンだったかどうか、ということだ。クローンは免疫応答も同一なので、ある病原体に免疫が作れない場合には、その病原体によりすべての個体が死滅する。十九世紀半ばのアイランドでは、人口の三割が単一品種のジャガイモを主食としていた。記録によれば、成人が一日で五〇〜八〇個のジャガイモを食していたといわれる。これではジャガイモしか食していなかったと言っても過言ではない。ニューヨークに発しヨーロッパに入ってきた疫病によりジャガイモが不作となり、一〇〇万人(人口の二割)もの死者が出た。貧困層の多くがゲール語を話しており、このことでゲール文化に壊滅的な被害があった。多様な品種のジャガイモを栽培していればこの危機は避けられたかもしれない。潜在的な問題がバナナにもある。現在栽培されているバナナの九十%はキャベンディッシュ種のクローンである。これがなんらかの疫病で不作になると、バナナに栄養依存している貧しい国々で

飢饉が起こる危険がある。

一万三〇〇年前、人類は一週間のうち数百種類の食物を消費している。現在、人類が消費するカロリーの九〇%はわずか十五種(とその亜種)の植物から得られているという。これら十五種の植物に疫病が生じてしまったら、世界中で多くの餓死者が出るであろう。生物多様性をそぎ落とすことで大量生産を可能にしてきた私たちの農業は、結果的には非常に危うい均衡の上にかろうじて立っている。

さて、種レベルではどうだろう。多様な種が共存するためには、異なる資源を利用する必要がある。ここで言う資源とは、栄養素、日照、植生、温度など、様々な条件を含む。前述のように、ある種が利用する資源の組み合わせを生態学的環境と呼ぶことにする。ある地域が多数の種を保持するためには、環境が寄せ木細工(モザイク)化され、多様な生態学的環境を支えることが必要である。

多様な生物の冗長な相互作用に支えられた環境は(伝染病や気候変動などの)破壊的な変化を E することができるといふ考えは納得しやすい。種にとつて劣悪な環境と好ましい環境があり、それぞれの種にとつての劣悪さと好ましさが異なり、かつそれぞれの種が環境に固有の応答をとれば、多くの種が共存できる。例えばミジンコは環境が悪化すると休眠卵を産んでその時期をやり過ごし、環境が回復すると孵化する。複数のミジンコが競争関係にあつても、休眠卵を作る環境変化が異なれば、環境を寄せ木細工化することができ、共存可能となる。

しかしこのような関係では、必ずしも種の豊富さが環境を支えているとは言えない。環境の寡占によつて、資源が枯渇する状況を考えねばならない。捕食者・被捕食者の関係を考えると、そのような例があるのかもしれない。複数の種の共存を促進するメカニズムを相利共生的な種間相互作用という。植物では多数の送粉者(花粉を運搬する動物)と複雑な関係を築き安定的なネットワーク構造を発達させることで多種共存を可能にしている。このような仕組みは、少数種よりも多数種が共存することにより安定する。

レヴィーストローヌやクストーの言葉を補えば、「文化多様性が高い文明ほど頑健である」ということになろう。再び、彼らに

とつてこの言明は自明であつただろうが、私はこれを論理的に展開せねばならない。ここで比喩されているものは、種と文化、生態系と文明である。まず、種と文化の比喩はどうであろうか。種が異なる生態学的環境を利用するように、文化も異なる生態学的環境を利用する。種が分化したり滅亡するように、文化も分化したり滅亡する。種は個体群からなるように、文化も個体群が支える。以上から、種と文化の比喩は成立しているといえる。

次に生態系と文明である。生態系が複数の種の相互作用で成立するように、文明も複数の文化の相互作用で成立する。生態系が動的に変化するように、文明も動的に変化する。生態系が種の階層性から作られるように、文明も文化の階層性から作られる。最後は少し説明が必要であろう。生態系は種によって利用できる栄養形態の階層から成っている。太陽光と二酸化炭素から酸素と糖を作る植物を栄養として草食動物が生き、草食動物を栄養として肉食動物が生きる。それらの動物の排泄物を利用して土壌が豊かになり植物が生きる。人間が従事する産業も同様に階層化されており、それぞれの階層に固有の文化が生じる。これらの総体が文明である。以上から、生態系と文明の比喩も成立可能である。

(岡ノ谷一夫「外来種論争から考える日本語と英語」による)

(注)

\*ミンク：イタチ科の哺乳類。

\*アクアラング：水中呼吸器。

問一 空欄 A に入る語句として最適なものを、次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 1。

① 固有種

② 絶滅種

③ 在来種

④ 特定種

⑤ 変種

問二 傍線部1「在来種と外来種の区分が恣意的である」とあるが、その内容の説明として最適なものを、次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 2。

- ① 在来種と外来種の区別は、単なる生物分類学上の相違に過ぎないということ。
- ② 在来種と外来種の区別は、生息地域の相違を反映しているに過ぎないということ。
- ③ 在来種と外来種の区別は、当該地域の環境への適応度の相違を反映しているに過ぎないということ。
- ④ 在来種と外来種の区別は、両者が当該地域に移入した時期の相違に過ぎないということ。
- ⑤ 在来種と外来種の区別は、固有種と生物学的な関係性を有するか否かの相違に過ぎないということ。

問三 空欄 B に入る記述として最適なものを、次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 3。

- ① 長い間人々によって畏怖の念をもって信じられてきた事柄であることを意味(または含意)した言い方である。
- ② 人々によって伝承されてきた神聖さを帯びた物語であることを示唆(または意味)した言い方である。
- ③ 多くの人々が信じているが、科学的には検証できていないことを示唆(または揶揄)した言い方である。
- ④ 人類の世界観を超自然的存在の関与の所産として捉えるべきであることを示唆(または意味)した言い方である。
- ⑤ 人々の不正確な記憶により作られた単純な物語に過ぎないものであることを揶揄(または示唆)した言い方である。

問四 傍線部2「ハクジャク」を漢字で書きなさい。解答用紙(その2)を使用。

問五 空欄 C に入る語句として最適なものを、次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 4。

- ① 危険な
- ② 野生の
- ③ 有害な
- ④ どう猛な
- ⑤ 見慣れない

問六 空欄 D に入る語句として最適なものを、次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 5。

- ① なぜなら
- ② 要するに
- ③ すなわち
- ④ もちろん
- ⑤ しかし

問七 傍線部3「不均衡の度合いは、進化の歴史をどのくらい共有してきたかによる」とあるが、その内容の説明として最適なもの、次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 6。

① 外来種が時間をかけて移入してきた場合、在来種との共存バランスが徐々に崩れ、在来種が外来種によって駆逐される事態が生じること。

② 在来種と外来種の共存バランスの不均衡は、両者が同一環境の中で進化を共有してきた期間が短いほど目に見える形で現れやすいということ。

③ 進化の過程の中では在来種と外来種は連続的であり、両者の生物学上の区別は存在せず、その区別はあくまで便宜的なものに過ぎないということ。

④ 南極のように種の数が少ない地域と赤道直下のように種が多い地域とは生態系の強さに違いがあり、生態系の強さには明確な地域差が存在すること。

⑤ 在来種と外来種は進化の歴史をどの程度共有してきたかによって区別されるものであり、当該地域への移入時期の違いは両者を分ける本質的な基準とはならないということ。



問八 傍線部4「生物多様性をそぎ落とすことで大量生産を可能にしてきた私たちの農業は、結果的には非常に危うい均衡の上にかろうじて立っている」とあるが、その内容の説明として最適なものを、次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 7。

① 生物多様性が損なわれることで、世界中の食物の大半が先進国に集中し、発展途上国では疫病により多く餓死者が出る恐れがあるということ。

② 一週間のうちに消費する食物の種類は、一万三〇〇〇年前と比べると十分の一以下に減っており、今後その数はさらに減少する可能性があるということ。

③ 本来ならまだ食べられるはずの食品が廃棄される食品ロスが問題となっており、その対策を早急に講じなければ、近い将来、世界中で多くの餓死者が出る恐れがあるということ。

④ 先進国では人間の食の嗜好性が大きく変化し、生産する植物の種類も減ったことにより、今後、これらの作物が不作となった場合、先進国において多くの餓死者が出る恐れがあるということ。

⑤ 限られた種類の植物の大量生産化により、人類が消費するカロリーの大半が十五種ほどの植物に依存しており、これらの植物が疫病にかかった場合、世界中で多くの餓死者が出る恐れがあるということ。

問九

空欄 E

に入る語句として最適なものを、次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 8。

① 緩衝

② 促進

③ 止揚

④ 醸成

⑤ 拡散

問十 傍線部5「生態系と文明の比喩」の説明として最適なものを、次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は

9。

- ① 文明に文化の階層性が存在することは、生態系に種の階層性が存在することと部分的な関連性を持つ現象とみなし得る。
- ② 人間の社会構造や産業に見られる階層性は、種の生態環境や栄養形態に見られる階層に由来するものとして捉えることができる。
- ③ 文明が複数の文化の相互作用と階層性を有することと、生態系が複数の種の相互作用と階層性を有することとは類似している。
- ④ 文明が動的に変化し、崩壊することがあることと、生態系が動的に変化し、破壊されることがあることとの間には何らかの因果関係が読み取れる。
- ⑤ 原住民族にとって異民族の移入が脅威となることは、在来種にとって外来種の移入が脅威となることと相似した現象である。

問十一 本文の内容に合致しないものを次の①～⑤から一つ選び、記号をマークせよ。解答欄番号は

10。

- ① それぞれの種は異なる資源を利用することで共存可能となる。
- ② 外来種は人間の健康や生活環境をおびやかすことは全くない。
- ③ 相利共生的な種間相互作用によって、複数種が安定的に共存可能となる。
- ④ 現在では、カワウソの減少はミンクの移入とは関連がないと考えられている。
- ⑤ 文明が頑健であるためには、文化が多様性に富んだものでなければならぬ。

二 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

\* ハイブリット・ホフマンの描く『もじゃもじゃペーター』が、その櫛くげずることをいとうて伸ばし放題に伸ばしたもつれ髪かみのゆえに、良俗に反する異端児であったとすれば、ミヒヤエル・エンデの描く『モモ』もまた、ダブダブの上衣と真黒な素足、それに何よりも櫛はと鋏はさみとも無縁む縁のくしゃくしゃの髪かみのゆえに、大人たちの眉まゆをひそめさせる鼻つまみ者であった。

にもかかわらず、物語世界において、この両者の演じる役割は大きく異なっている。ペーターは、櫛くや鋏はさみを嫌って秩序の外に住もうとし、未だ文明に組み入れられていない野生を代表するが、究極的には、秩序の側に加担し、その奉仕者として機能している。何故なら、彼は、子どもたちに「もじゃもじゃであること」を止めさせ、秩序の側に属することを奨めるからである。その意味で、ペーターは、<sup>1</sup>敗北する野生を代表すると見ることも可能であろう。これに比して、モモは「もじゃもじゃであること」をやめることなく、その特性のゆえに文明の救済者となる。物語世界において、人間はモモのゆえに救われたのであり、物語のメッセージを受けとめることで、人と文化もまた、回生の機会を持ち得るからである。

『もじゃもじゃペーター』が、ホフマンのペン先から生まれ出たのは、周知のとおり、一八四四年のことであった。以後、その同一視の容易さの故に、子どもたちのアイドルの地位を獲得し、同時に、その教化的効用のゆえに親たちの信任をも得て、絵本の世界で久しい命脈を保ち続けてきている。ところで、髪も爪も伸び放題のこの野生児は、必ずしもホフマンの独創に負うものではなく、広くヨーロッパ北部に潜在する「手に負えない子ども」のイメージだったといわれている。<sup>\*</sup> ヒューリマンによれば、文豪ゲーテが、「フランクフルトのもじゃもじゃペーター」と呼ばれたのは、ホフマンに先立つ百年も以前のことであった。また、パリの石版画家ガヴァルニのエッチングに、ペーターそっくりのもじゃもじゃ髪かみの男の子が登場したのも、ホフマン以前の出来事である。

こうみてくると、櫛くを入れないもつれた頭髮と、鋏はさみを拒んだ長い爪は、人間が子どもをイメージするとき、必ず浮かび上ってくる属性の一つといえるかも知れない。それゆえに、<sup>\*</sup> ドナルド・ブリंकマンは、これらを総合して、「もじゃもじゃ」を、ユン

グ流に言うなら人間の古態型の一つ、魂に潜む原型的なイメージとみなし得ると論じている。

いづれにせよ、「もじゃもじゃ」は、未だ文化という名の秩序の体系に組み込まれていない自然児を表わすものであり、しかも、かなりの普遍性を指摘し得る象徴であるように思われる。しかも、それは常に、文化・秩序に敵対するのではなく、文化・秩序の側がそれを否定し、抑圧しようと試みることから敵対関係が生じるのであろう。

それならば、何故、「もじゃもじゃ」は、文化に拒否され、敵視されるのだろうか。大人たちの良識は、しばしば、それを「不潔で、みにくい」と評価する。しかし、不潔か否かは、その維持のされ方にかかわることであって、「もじゃもじゃ」そのものの属性ではない。また、美醜は相対的感覚であり、一を美とし他を醜とするのは文化的伝統に過ぎない。従って、不潔さも醜さも、人間の認知のしかたであり、文化の名の下に「もじゃもじゃ」に与え続けてきた「伝統的なしるし」なのだ。

髪や爪は、当人の意志を超えて自然のままに伸び続け、しかも、極めて増殖力の著しいものである。それゆえに、しばしばそれらは、自然の激しい生命力の象徴として位置づけられてきたし、同時に、「髪がぬける」「爪が伸びなくなる」などは、生命力の衰えを表わすものであった。

与謝野晶子は、歌人特有の感覚でこの経緯を把え、盛りにある者の驕慢と衰えつつある者のセンボウを同時に歌い上げて見せる。

その子はたち 櫛にながるる黒髪の

おごりの春の うつくしきかな

頭髮そのものはこんなにも生命的で、まさに躍動する生命の象徴であるのに、缺を入れないというだけの理由で、何故に忌避と抑圧の対象とされるのだろうか。

その理由の一は、髪や爪が徹底して生命的であるという、まさにその点にある。すなわち、最も生命的なもの、例えば、植物人間化しても活動し続けるような基盤的な部分は、きわめて生物的な部分である。それらは、人間の意識とは無関係であって、当人ですらそれを統制することが出来ない。理性的動物である人間が、自身の統制を超える部分に対して、忌避の感情を抱くの

は当然といえるかも知れない。排泄や性が文明社会において、しばしば忌避の対象にされがちであるのも、同様の理由である。

頭髮が、あまりにも生命的であるがゆえに、人間の忌避感情を誘発する宿命にあるとすれば、それが、勝手な方向に繁殖し無秩序にもつれ合うことは、忌避の感情をひとしお増大させる。「もじゃもじゃ」は、まさしく無秩序ながらであり、しかも、その非合理的な A をもって、人間の意識的・合理的理性の対極に位置づけられるのである。それゆえに、「もじゃもじゃ」を、「鋏で切り」、「櫛でとかしたい」という、文化的要求が発生するのも当然であろう。

「もじゃもじゃ」の所有者たち、つまり、未だ文明化されない自然児たちは、みずからは意識することなく、文化と秩序の敵として、排除の対象とされる。しかしながら、切っても切っても伸び続ける頭髮さながら、「もじゃもじゃ」たちは、次々と現われ続けて不敵の生命力を誇示する。<sup>4</sup> 児童文学世界を彩る歴代の「もじゃもじゃ」たちは、この意味で、文化的秩序に挑む自然的生命力の戦士なのである。

ペーターは、「しつけられねばならぬ子ども」を代表して、ホフマンのペン先から生み出された。物語世界の大人たちは、これら自然児を、さまざまに矯正することで自分たちの責務を果たそうとし、この本を手にする大人たちもまた、「ペーターのようであってはならない」と、子どもたちを説き伏せることで、良俗と秩序の守り手であった。自然的生命力が繁殖するとき、自分たちの秩序が脅かされる危険性を感じ、それに対する防衛機制が発動する。<sup>5</sup> 「しつけ」とは、そもそもがそういうものではないだろうか。

この系譜は、その後も連綿と受け継がれ、二十世紀の現代も、わが国の良識ある母親たちの手によって見事に開花させられている。せなけいこ描く『いやだいやだのほん』の、「ルルちゃん」の世界は、その典型例といえよう。

作者は、わが娘のために、しつけの補助具としてこの本を作ったといっている。「いやだいやだ」と拒否し思うままにならない子ども、「もじゃもじゃ」の生命力、「定時に寝ない」ルール侵犯者、それらに対する大人たちの狼狽と困惑が、そこには投影されている。面白いことに、作者の意識はルルちゃんを、しつけの対象としての頑<sup>6</sup> はない幼児と見ているが、その無意識は、「危険

「な敵、征服すべき反逆者」の存在を感じとっているものようだ。その証拠に、ルルちゃんは、目をつり上げ、口をへの字に結んで、不敵の面持ちで大人をにらみつけているのだから。彼女の映像は、まさに、チャレンジヤーのそれである。

絵本世界において、大人たちはルルちゃんをだましにだまし、結局は、大人の秩序の側に組み込んでしまう。つまり、彼女の「もじゃもじゃ」を「チヨキチヨキ」してしまうのである。最後のページのルルちゃんは、こぢんまりときれいになり、表情までおだやかに、但し、個性のないありふれた女の子に変貌している。

加えて、そのルルちゃんが鏡にうつった姿で表現されていることは、極めて興味深く思われる。何故なら、きれいになったルルちゃんは、本来の彼女ではなく、鏡上の虚像だということになるからである。作者の無意識は、髪を「チヨキチヨキ」した大人しやかなルルちゃんを、本ものではない仮りの姿として把握しているのであろう。子どもたちは、やむを得ず一時的に「もじゃもじゃ」であることをやめる。しかし、彼らの内的世界は、依然、「もじゃもじゃ」の生命力に満ち満ちているのだ。

ところで、ルルちゃんを、ペーターの直系の子孫とすれば、アルプスの風と光の申し子「ハイジ」は、母を異にする子孫ということになるか。ハイジの髪は、「短くて、くしゃくしゃ」と形容されている。美しくとかした長い髪が、少女の容姿の条件とされていた当時であって、彼女のそれは、明らかに異端であろう。「くしゃくしゃ」の髪で、短いスカートの裾から健康そうな足によきりと出して、アルプスの牧場を飛び回るハイジの存在は、どう見ても秩序の外なのである。ゼーゼマン家の家政婦ロツテンマイエルが、躍起になってハイジの言動を改めようとしたのも、当然の成り行きであった。何故なら、ロツテンマイエルは、家事取り締りという職務上、名実ともに秩序の代表者なのだから。

しかし、ハイジは、ルルちゃんのように秩序の側に組み込まれることなく、かといって、異端児として反逆の姿勢を貫き通したのではない。彼女は、救世主としての役割をになったのであった。クララの健康を回復させることでゼーゼマン家に幸福をもたらし、孤独の老医師クラッセン氏に喜びを与え、盲目のペーターのお婆さんの光明となり、遂には、世に背いた老祖父の頑なな心の扉まで開くという、B 六臂の活躍を見せるのだ。

作者シュピリト、この物語を愛する多くの人々が、ハイジの「もじゃもじゃ」に見るのは、世俗に染まらぬがゆえの純粹さと無

垢であり、その結果としての世直しの効用であった。文明と秩序は人を生かすことが出来ず、自然と野生が人と世界に活力を与えるという把握が、ここにある。

そして、約一世紀を経た今日、「ハイジ」のより哲学的な末裔として誕生した「もじゃもじゃ」こそ、ミヒヤエル・エンデの描く「モモ」だったのである。

(本田和子『異文化としての子ども』による)

(注)

\*ハインリッヒ・ホフマン：ドイツの医師、文筆家。

\*ミヒヤエル・エンデ：ドイツの作家。

\*ヒューリマン：スイスの絵本作家、編集者。

\*ガヴァルニ：フランスの版画家、水彩画家。

\*ドナルド・プリנקマン：スイスの心理学者。

\*せなけいこ：日本の絵本作家。

\*シュピリ：スイスの女流児童文学者。

問一 傍線部1「敗北する野生を代表すると見ることも可能であろう」とあるが、その説明として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 11。

① 『もじゃもじゃペーター』の野性的なキャラクター像は子供たちからアイドルの地位を獲得し、大人たちの秩序の一員となつて文明の救済者となった。

② 『もじゃもじゃペーター』はその容姿から文明の救済者として子供たちに受け入れられたが、「もじゃもじゃ」を嫌悪する大人たちには敗北してしまつた。

③ 『もじゃもじゃペーター』は秩序の外に住もうとしたが、結果的に子供たちの「もじゃもじゃ」を抑止し、大人たちの秩序の側に属するようになった。

④ 『もじゃもじゃペーター』は当初子供たちに対して親に反逆の姿勢を貫くよう奨めていたが、最後には大人たちが共鳴する秩序の側に懐柔されてしまつた。

⑤ 『もじゃもじゃペーター』は教化的効能からヨーロッパの大人たちの信頼を勝ち得たが、子供たちからは眉をひそめられ、秩序の側に受け入れられなかった。

問二 傍線部2「伝統的なし」とあるが、その説明として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 12。

① 「もじゃもじゃ」の生命力の高さゆえに、大人たちが文明の救済者としての役割を託そうとした。

② 「もじゃもじゃ」な状態を大人が不潔で醜いと解釈したため、かえって当時の子供たちから信頼を得た。

③ 「もじゃもじゃ」の不潔さと醜さを大人が許容できず、彼を救済者として秩序の側に取り込んだ。

④ 「もじゃもじゃ」特有の不潔さと醜さが理由となつて、世間から差別されるようになってしまつた。

⑤ 「もじゃもじゃ」はその不潔さと醜さのために、大人たちから文化の名において一方的に拒否され続けた。



問三 傍線部3「センボウ」を漢字に改めなさい。解答用紙(その2)を使用。

問四 空欄 A には、どのような語が入るか。最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は 13。

- ① 造形性                      ② 人工性                      ③ 社会性                      ④ 視覚性                      ⑤ 曲線性

問五 傍線部4「児童文学世界を彩る歴代の『もじゃもじゃ』たちは、この意味で、文化的秩序に挑む自然的生命力の戦士なのである」とあるが、その説明として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 14。

① 大人たちが矯正しようとする対象となりながらも、それに相反して文明化されていない自然児が生命力溢れる存在として描かれた。

② 髪と爪が成長し続ける自然児の存在によって、文化的価値観のみを正しいと考えていた大人とは異なる子供の心情を表現した。

③ 「もじゃもじゃ」たちは秩序を重んじる大人に果敢に反抗したが、最後は大人の考えを受け入れ、生命力ある戦士として活躍した。

④ 不敵な生命力をもつ「もじゃもじゃ」のキャラクターたちが、大人が堅持する秩序を破壊しようとする作品が世に送り出された。

⑤ 大人たちが統制できない「もじゃもじゃ」を武器に、世の中の不条理に果敢に立ち向かう勇敢な戦士達が実社会に登場した。

問六 傍線部5「しつけ」とは、そもそもがそういうものではないだろうか」とあるが、その説明として当てはまらないものを次の①～⑤から一つ選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **15**。

① 自分たちの秩序を超えた「もじやもじや」に大人たちが困惑・狼狽し、子供たちを大人しやかな姿に変えさせようとする。

② 髪や爪が有する奔放な生命力の強さが、大人たちの心に忌避の感情を抱かせ、すみやかに矯正しなければとの思いを強くさせる。

③ 髪や爪が無秩序に成長する現象が、大人たちからは尊敬の対象と見なされ、揃けずって身綺麗にさせる必要性を感じさせる。

④ 大人たちは、子供たちの髪や爪が伸び放題であることを不潔であると考え、それを否定し、抑圧しようと試みる。

⑤ しつけなければならぬ子供たちがいると、大人たちは秩序が脅かされる危険性を感じ、子供たちを説き伏せようとする。

問七 傍線部6「頑是」の読みを平仮名で書きなさい。解答用紙(その2)を使用。

問八 傍線部7「アルプスの風と光の申し子『ハイジ』は、母を異にする子孫ということになるか」とあるが、その説明として正しいものを次の①～⑤から一つ選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **16**。

① ハイジはルルちゃんとは一線を画し、生命力に満ちた言動が大人たちを魅了し、彼らの秩序を維持する救済者となった。

② ルルちゃんやペーターとは異なり、ハイジは短い髪を持ちながら大人たちの秩序に受け入れられる人物として創られた。

③ ルルちゃんやペーターと同様に、ハイジは大人によって爪と髪を整えられない、野性的で自由闊達な少女として登場した。

④ ルルちゃんはペーターと同じく秩序に取り込まれるが、ハイジは秩序に組み込まれず人々を救う主人公として描かれた。

⑤ ハイジはルルちゃんとは異なり、大人たちに言動を改められ、アルプスの牧場を跳び回れる生命力の高い少女に変貌した。

問九

空欄

**B**

には、どのような語が入るか。最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は

**17**。

① 百戦

② 八面

③ 七転

④ 五里

⑤ 三位

問十 この文章の内容と合致するものを、次の①～⑤から一つ選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 18。

① 「もじゃもじゃ」が大人から敵視されるのはその不潔さと醜さによるものであり、「もじゃもじゃ」を主人公にした作品が多く生み出されたのは、大人が子供に衛生観念を教育しようとしたのが主な理由である。

② 「ハイジ」は秩序の代表者であるロッテンマイエルの教育によって、世俗に染まらぬ純粹無垢な存在として矯正され、救世主という新たな役回りを担う「もじゃもじゃ」の主人公として、大人の絶大な支持を得た。

③ 「もじゃもじゃペーター」は、当初は櫛や鋏を嫌悪し秩序の外に身を置くことを望んだが、最終的には秩序に取り込まれてしまったため、子供たちからの支持を失ってしまい、さらに嫌悪の対象となってしまった。

④ 「もじゃもじゃペーター」の直系の子孫である「ルルちゃん」は、髪を切りそろえた姿を鏡に虚像として映すエンディングによって、子供は大人に一旦は従うものの、その内的世界は生命力に満ちていることを示した。

⑤ 本人の意志を超えて伸び続ける髪や爪は生命力のバロメーターであり、自分で統制できないものに対して合理的理性で対処できない恐怖感を抱いた大人たちの間に、「もじゃもじゃ」に対する支持が広がった。

### 三 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

日本には昔から「ほどほど」という実にいい言葉があります。もともと子どもに対しては、ほどほどのところでやめておきなさいと諭してしまうよりも、飽きるまでやらせる育て方のほうに一票を投じたいと思いますが、仕事の経験を積んでくると、この言葉の深い意味合いが少しずつ分かってきます。「ほどほど」には、やりきらずに手前で留めておくといったニュアンスがあります。これをデザインにそのまま置き換えてみると、「ほどほどのデザイン」となる。それだけを耳にすれば、あまりいいデザインではないような印象でしょうが、「ほどほどのレベルを徹底的にデザインする」、あるいは「ほどほどのデザインを極める」として捉えるなら、印象は一変するはずですよ。つまりここでお話ししたい「ほどほど」とは、やりきることも承知しながら、敢えて手前のほどよいところを見極め、そこで仕上げておくことなのです。

この、少し手前でほどほどに留めておくデザインによって生まれる「空き」こそが、人がものと自分なりの仕方でき合うことを可能にする余地になります。その人その人なりにものをカスタマイズできるのだと言ってもいい。そもそも人は、それぞれ価値観も違えば生活におけるあらゆる行動のとり方も一人ひとり違います。しかるに、完成しきって「空き」を持たないものを前にして、なんだか壁に<sup>2</sup>阻まれて<sup>2</sup>いるみたいだと感じたことのある方は少なくないと思います。もののほうから一方的に「こう使え！」と偉そうに言わんばかりであったり、ものとしては美しいけれどまったく実用する気にならなかったりするのも、「空き」がないためなのかもしれないのです。メーカーやデザイナーは、ついそのものだけの一つの作品のように見なしての完成度を目指してしまう傾向があります。当然「空き」など生まれようがない。しかし本来デザインは、それ自体に価値があるわけではなく、デザインされたものと付き合う人との関係の中で効力を発揮するのです。人の価値観はみな違うのだから、デザインは人それぞれの価値観で関わることができる、ほどほどの領域で留めておくべきなのではないでしょうか。そこに「空き」が生まれません。

「ほどほど」という曖昧な日本語の中に、実はデザインがなすべき大切なヒントが含まれているように思います。そしてこの

「ほどほど」を、古来の日本の日常生活用具のそここに垣間見ることができるのです。

私たちの日常生活の中で何気なく使われている道具を人との関係で観察し直してみると、日本ならではのデザインが見えてきます。例えば、使う人の能力を前提に成立しているもの。ご飯を食べる時に使う「日本の箸」はその代表格です。先を細くした二本の棒を使いこなすだけで、小さな米粒や豆や、けっこう大きなジャガイモまで挟むことができるばかりか、この単純きわまる道具で肉を切り離したり柔らかいものを刺して割ったり、みそ汁をかき混ぜたり具のツルツル滑るワカメをつまみ上げて口へと運んだり、海苔で白米を包んだりと、用途は多様で、小さな頃から経験を積んだ我々は、毎日のように二本の棒を無意識に使いこなしているのです。ここには西洋のフォーク、ナイフとは全く異なる<sup>3</sup>「関係のデザイン」が見られます。フォーク、ナイフの進化について、ヘンリー・ペトロスキーが『フォークの歯はなぜ四本になったか』に詳しく書いていて、それはそれで微笑ましく、フォークとナイフが共に進化(共進化)した経緯は大変興味深い。現代のフォーク、ナイフには取手の部分があり、握りやすいように膨らんでいて、膨らみ具合がデザインの特徴になっている場合も多いでしょう。対するに、箸には取手に充<sup>あ</sup>たる部分がなく、取手どころか、どの指はどこに当てる、といったデザインは一切施されていません。ものの側から「このように使ってください」と教えずデザインではなく、素材のままそこに在って、見掛けは「どうぞご自由に」とやや素っ気ないくらいですから、箸を初めて目にした他国の人は、いったいこれをどう使うつもりなのか?と面食らうに違いありません。しかし使用法をマスターしてしまえば、食べるための道具としてのこの使い勝手の良さは他に代えがたいものになることでしょう。つまりは、二本の棒である単純さが、人の本来持っている能力をむしろ引き出しており、そこには人の所作さえもが生まれます。箸において日本人は、それ以上の進化による利便は求めてきませんでした。ですから西洋のフォークとナイフのような目に見える進化はしなかったものの、日本の箸は、ほぼ棒状のままの中国、韓国のと異なり、かつ金属ではなく主に木や竹を使い、先をかなり細くすることで、より繊細な動きに対応できるよう微妙に進化したのみならず、漆塗りのような丁寧な表面仕上げや材質選びにも伝統が活かされてきました。このように当りまえの日常の中に、ほどほどのところで留めておきながら徹底的に突き詰めようとする日本らしさを見出すことができます。

食べるための道具は、食物と人間との関係によって進化してきたのですから、それぞれの国や地域の食文化全体の中で見極めていく必要がありますが、これだけ食の流通が行き届き、世界中の食べ物が手に入るようになった今もなお、日本の箸は、あくまで日本の箸であり続け、しかも日本食が世界的なブームとなり、箸を使いこなす海外の人々も増えている事実<sup>4</sup>に注目すべきです。日本のデザインは内向きでガラパゴス化しており、もつと世界に打って出るべきである、といった発言を時折耳にします<sup>4</sup>が、これはとんでもない誤解です。誰々が派手にデザインした何々に、ではなく、アノニマス<sup>5</sup>(トクメイ)な箸のようなものこそ、世界に誇るべき日本のデザインが豊かに潜んでいるのですから。

もう一つ、忘れてならないのが「ふろしき」です。何十通りもの包み方があり、あらゆる包む対象に合わせた対応が可能ならば、使わない時には小さく畳んでおける。つまり自由自在に変化できる一枚の布の状態に留めてあるわけで、それ以上はデザインしていません。バッグのように持手を付けたり袋状に縫ったりは敢えてせずに、どこまでも原型を保ったまま使われ続けている。我々が何もかもを便利至上に走っていたのであれば、すでに息絶えてしまってもおかしくなかった道具の一つなのかもしれません。しかし人間の側に備わっている「考える」力や「適応する」力を引き出す余地をたっぷり残した「ふろしき」という一枚の布が、宅配便で何でも便利に届くこの時代にまでちゃんと残っていること自体が注目<sup>6</sup>に値します。これも、やり過ぎないほどほどのデザインの典型なのです。改めて申しあげるまでもなく、一枚の正方形の布であるがゆえに、「ふろしき」に施されるグラフィックデザインは無<sup>6</sup>限の可能性に満ちている。今の時代、もつともつと便利さを求めてその場その場に合わせた様々な形態をつくり出しているのですが、ある意味で不便な一枚の布が、ほどほどなところで留められたこと<sup>6</sup>によって、無限と言いたいほど表現可能なキャンバスになっている。また、少しばかり昔の日本の生活を思い出してみるなら、普段は折り畳んで仕舞い、使う時だけパタパタと広げて、必要なところに置けば室内の間仕切りとなる「屏風」などにも、「箸」や「ふろしき」と同じ「ほどほど」が見えてくるはず<sup>6</sup>です。今後甦るべき道具を、多く日常生活文化史に発見できるのではないのでしょうか。

デザインを考えることは、人の豊かさとは何かを考えることに他なりません。今、二十世紀後半を振り返ると、生活道具をあたかもオブジェのように完成させて、その美しさを競った時代のように思えます。二十一世紀も同様にオブジェとしてのデザイ

ンを我々はなし続けるべきなのでしようか。日常を少し見回してみただけでも、箸やふるしきや屏風のように日本人の振る舞いに準じて育まれてきた素晴らしいものが残っているのだと気づかされます。そしてそれらが体現しているのが「ほどほどを極める」なのです。人間の身体どころか心までを使わないで済むようになってきてしまった必要以上の間違った便利さを見直して、ほどほどを極めるレベルを今一度模索しなければならない時が来ようです。それこそは資源の問題、エネルギー問題、そしてこの国の文化的価値の問題などと密接に繋がってくると思われてなりません。

心と身体を使わないで済むような便利さが、果して人を本当に豊かにするのか。昔から普段よく言われてきた「ほどほど」や「いい塩梅<sup>あんばい</sup>」などの言葉が、実は日本人が忘れてはならない大切な感性をしかと伝えているのです。

(佐藤卓『塑する思考』による)

(注)

\*ヘンリー・ペトロスキー…アメリカ合衆国の工学者。



問一 傍線部「深い意味合い」とあるが、デザインに即したその説明として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 19。

- ① 「ほどほど」には「無理をしない」という意味があり、時間をかけ過ぎたデザインは時代遅れとなり人々の心を掴まないこと。
- ② 「ほどほど」には「適当に」という意味があり、デザインは完璧さを追求することなく、必ず手を抜くべきであること。
- ③ 「ほどほど」には「節度を持って」という意味があり、デザインに遊び心を過度に盛り込まないように心がけること。
- ④ 「ほどほど」には「多すぎないように」という意味があり、華美過ぎるデザインは世間の受容と乖離する可能性があること。
- ⑤ 「ほどほど」には「度を超さないように」という意味があり、デザインにはゆとりをもたせて、ほどよく仕上げること。

問二 傍線部2「壁に阻まれているみたいだ」とあるが、その説明として最適なもの次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。

解答欄番号は 20。

- ① メーカーは商品の質を上げなければならないが、デザイナーは質よりもデザイン性の高さを追求しがちで、客が閉塞感を抱く。
- ② デザイナーは客の要望に応える必要があるにもかかわらず、偉そうにデザインを提示することが多く、客が気後れしてしまう。
- ③ 人々は流行に乗り遅れないように同一性の高いデザインを求めており、自由度が高いデザインを示されると、使いづらさを覚える。
- ④ 人はそれぞれ求めているものが異なるために、自由度が全くないデザインを提供されると、強制されているように感じる。
- ⑤ 人は日常生活では実用性の高いデザインを求めるが、デザイナーはカスタマイズ可能なものを良しとしているため、客が不快に思う。

問三 傍線部3「関係のデザイン」とあるが、その説明として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **21**。

① ナイフやフォークは共進化という形で相互に発展し、対する日本の箸は仕上げの表面加工や箸の材質に心を砕いた。

② ナイフやフォークは西洋の食文化によってデザインを変え、日本の箸は滑りやすい食物を好む食文化にあわせて進化した。

③ ナイフやフォークは取っ手が握りやすいように加工が繰り返されたが、日本の箸は利便を求めず、全く改良されなかった。

④ ナイフやフォークはデザインから指を置く位置を指定されるが、日本の箸は使用者の気分によって持ち方を変えられる。

⑤ ナイフやフォークは持ち手のデザインから用途が限定されているが、日本の箸は用途に応じて多様な使い方ができる。

問四 傍線部4「日本のデザインは内向きでガラパゴス化しており、もつと世界に打って出るべきである」とあるが、その発言を筆者はどう解釈しているか。最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **22**。

① 日本のデザインが世界の人々に認められるように、その個性を前面に打ち出すべきである、ということ。

② 箸に代表される日本の道具は、海外の人でも訓練すれば使いこなせる高いデザイン性がある、ということ。

③ デザイン性の高い日本の箸は、材質選びや形状などのこだわりが強い、日本独自の道具である、ということ。

④ 使う人の能力によって様々な動作に対応できるように、日本の箸は多様なデザインの商品販売すべきである、ということ。

⑤ 日本の箸は全世界に歓迎されるデザイン性を有しており、積極的に海外に輸出するべきである、ということ。

問五 傍線部5「トクメイ」の「メイ」と同じ漢字を含むものを次の①～⑤から一つ選び、記号をマークせよ。解答欄番号は

23。

- ① 彼はケンメイに働いた。
- ② ユウメイな作家の著作である。
- ③ 彼女のソウメイさに感嘆した。
- ④ 先生の教えにカンメイを受けた。
- ⑤ 政局がコンメイしてきた。

問六 傍線部6「無限の可能性に満ちている」とあるが、その説明として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。

解答欄番号は 24。

- ① ふろしきは過度なデザイン性が施されていないことで、かえって使い手のニーズにあわせて、多様に用いることが可能である。
- ② ふろしきはデザイン性に豊んだ正方形の布であるために、人々が考える必要無しに、様々な包み方のアレンジが生まれた。
- ③ ふろしきは「空き」があるデザインであるため、人々はバッグの代用品として空間に余裕をもって多くの品物を包むことが可能である。
- ④ ふろしきは使い手に使い方を考えるように求める道具であるが故に、取っ手を付ける加工を施すなどの新たな使い方が提示された。
- ⑤ ふろしきが原型を保ったまま小さくたたんで収納可能なデザインであるため省スペース化がはかられ、荷物に「空き」が生まれた。

問七 傍線部7「ほどほどを極めるレベルを今一度模索しなければならぬ」とあるが、その理由として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 25。

- ① 使い方を考えなくてよい道具ばかりに囲まれると、人間の思考・身体が衰え、本当の豊かさが阻害されかねないため。
- ② ほどほどのデザインの道具に様々な加工を施すことにより、国の資源やエネルギーが浪費される可能性があるため。
- ③ 芸術品のような美しさを道具に求めるあまり、箸やふるしきのような日用品の進化が阻害される危険性があるため。
- ④ 過剰なデザインが施された道具を使い続けると運動能力が低下し、身体に連動して心も文化的に貧しくなるため。
- ⑤ 必要な時に使い手が使用法を考える道具が身の回りになくなってしまうと、人々の生活の利便性が低下するため。

問八 この文章の内容と合致するものを、次の①～⑤から一つ選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 26。

- ① 日本食が世界でブームとなっている現状を踏まえ、海外の人にも受け入れやすいように日本の箸を改良しなければならない。  
ない。
- ② 人間は一人ひとり生活をする際の行動の仕方が異なる以上、デザインは完成度を高める必要があることを忘れてはならない。  
ない。
- ③ 古来の日本の道具に見られる「ほどほど」さが、二十一世紀のデザインに生かすべき重要な要素であることを認識すべきである。
- ④ 近代化によって屏風は近年忘れ去られてしまいつつある道具の代表格であり、日常生活史の観点から再評価する動きが活発だ。
- ⑤ 二十一世紀こそ、デザイナーは人々の身体や心に負担がかからないような便利なデザインを提供できるように模索するべきだ。





